



京丹波町新庁舎前

木に親しむまちづくり推進委員会／ 教育・情報委員会合同県外研修

県外研修先 / 京丹波町—大阪市西区—神戸市

日時 令和3年11月30日から12月1日

1日目は、「いしかわ木に親しむまちづくり塾」との合同（総勢42名）で、11月に開庁したばかりの京丹波町新庁舎へ、2日目は、県外研修参加者22名で、大阪木材仲買会館、兵庫県立美術館王子分館 原田の森ギャラリー、カトリック宝塚教会を視察しました。

■京丹波町新庁舎

敷地面積：2,774.76㎡

延床面積：4,923.21㎡

主要構造：木造 一部鉄筋コンクリート造 鉄骨造

設計／施工者：有限会社 香山壽夫建築研究所／大成建設株式会社

令和3年11月に開庁した、地元産木材を使用した木造または木質化に工夫した京丹波町新庁舎を訪れました。この新庁舎は、従来の庁舎のように、用事のある時だけ行くものではなく、何時でも誰でもここを訪れ、集い、楽しむ施設を目指して造られました。

行政エリアは、来庁者がわかりやすいようなワンルーム空間となっており、町民交流エリアは多様な町民活動、憩いの為に十分な機能を果たしていました。私たちが見学させて頂いている最中も、多くの町民の方がカフェにいらっしゃいました。

議場も議会の為以外にも様々な使い方が出来る様に、議員席、執行部席、傍聴者席は可動式とするなどの工夫がなされ、内部は構造体や仕上げだけではなく、家具に至るまで町産材がふんだんに使われており、議場の窓から見える美女山がとても綺麗で強く印象に残りました。

建物は京丹波町のシンボルの一つである美女山に面して開放的に配置されており、地域のランドマークとなっています。議会棟、中央棟、執務棟の3棟は、南側の広場を囲むようにL形に配置され、各エリアがまとまりによって効率的な運用も図られています。



行政エリア内部



議場内部

町が求めている豊かな森林資源の積極的活用に応じ、森林資源活用に関する町の抱える課題に対して、町の木を最大限(町産原木950.75/898.72m³)に活用し、森の健全な循環システムを再生するなど、建物を作るだけでなく、森の再生にもなるような考えを提案するなど、とても興味深い内容が多く、今後の参考にさせて頂きたいお話をたくさん伺うことが出来ました。また、建物には2本の平角製材を合わせてビス留めし、一体化することで座屈耐力を高める組立柱が採用されており、木材伐採から製材加工までを地元で一貫して行う事で持続可能な林業振興へつなげるモデルケースとなっていました。

見学をさせて頂いて、町のシンボルとして、地域の憩いの場になっていることが分かりました。

見学を終えた頃には、既に日が沈み夕景に浮かび上がった建物を後にして向かったのは、京都市中京区にある「百足屋 本店」です。



外観(南側、夕刻)

百足屋本店は、京町家で京野菜を使用したおばんざい懐石料理を頂きました。

残念ながら、食べる事と話す事に一生懸命で写真はありませんが、どのお料理もとても美味しく頂きました。

夜も更けて、その後は数名の方と一緒に、ライトアップがされている高台寺へ行ってきました。残念ながら、入場時間に数分間に合わず、高台寺の周辺をぐるりと歩いただけではありましたが、ライトアップがとても美しく、楽しい夜を過ごさせて頂きました。

■大阪木材仲買会館

敷地面積：1,226.40㎡

延床面積：1,032.19㎡

主要構造：木造

鉄筋コンクリート造

一部鉄骨造

鉄骨鉄筋コンクリート

設計／施工者：竹中工務店

(白波瀬智幸、興津俊宏)



2日目にまず見学したのは大阪木材仲買会館です。

会館は木の表情があふれる3層式の耐火集成材（燃エントウッド）を採用し、一般的に懸念されるメンテナンス性や防災への対応を行うことで不燃処理等を施さない生の木材をふんだんに使用し、「コンクリートと鉄の街を「森の木」に変えるビルディングモデルを追求し、2013年に国内初の耐火木造オフィスとして建て替えられました。

この建物では木をどのように使うかということをいろいろ考えていて、構造材として使っている他、木が水に弱いということも配慮しながら軒裏に使用、格子で耐震壁を造るなど、木の種類や継ぎ方を見せせることへの配慮など、様々な取り組みがされていました。

建物の機能として、それほど複雑でもないこともあって構造も明快に作られており、既存の桜の樹木を囲みながら視界が広がっていました。

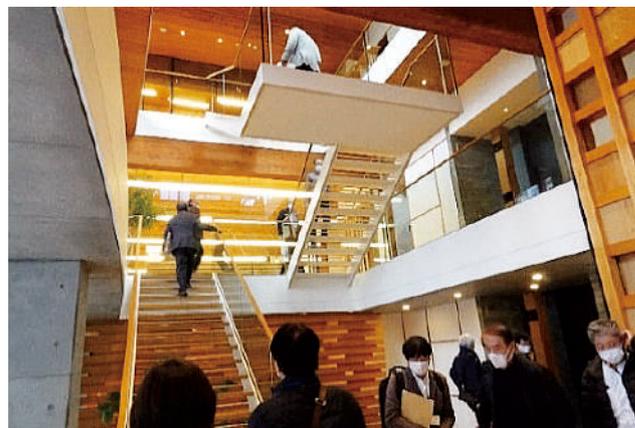
エントランスホールの右奥には、通用口とホールをつなぐ壁が設けられていて、製材工場に積まれた木材をイメージしたというヒノキの壁で木の間からは緩やかに光が漏れていました。

大会議場の奥の壁面は墨汁で色付けした和紙とフィンガージョイントを吸音材として利用しながらも見せる仕上げになっていました。

また、全ての梁には隅部と中央にポイントのようなものがあり、たわみを計測するためのポイントだと伺いました。

耐火集成材の木造架構が一望に見渡せるエントランスホールには、壁面・天井を始めとして建物全体が木のショールームあることを感じさせます。

シンボルツリーの桜を生かしたアールがとても優美で、桜の季節にまた伺いたいと思いました。





■原田の森ギャラリー

敷地面積：10,433㎡

延床面積：6,415.82㎡（本館+別館）

主要構造：本館 鉄骨造一部RC造、別館 鉄筋コンクリート造

設計者：村野 藤吾

原田の森ギャラリーは、1970年兵庫県立近代美術館として開館しました。建物は、2017年に改修された際は、村野藤吾氏が最初に手掛けた美術館という歴史的にも重要な建物である為、建物全体の印象に配慮し極力維持しつつも現代の建築技術との融合も図った設計がされています。

残念ながら展示がされており、建物外周と外部にある彫刻のみの見学となってしまいましたが、何か展示がされている時に再度訪れたいと思いました。

■カトリック宝塚教会

敷地面積：1,342.18㎡

延床面積：418.88㎡

主要構造：鉄筋コンクリート造、屋根鉄骨造

設計者：村野 藤吾

最後に昭和40（1965）年竣工の「カトリック宝塚教会」へ向かいます。

今津線宝塚南口駅から線路沿いを歩いていくと、線路越しに三角屋根の頂点にある十字架が見えてきました。線路下の狭い通路をくぐると、岸边に打ち寄せられた白鯨をイメージしているという聖堂が突然現れました。

鯨の口のような扉を抜けると、その先には鯨の胎内にあるかのような空間が広がっており、天井は生きているかのように波打っています。赤い絨毯と規則正しく並ぶ椅子、祭壇の横の窓から差し込む光がなんとも言えない雰囲気を与えています。祭壇上部は塔状からの光が落ちてきます。むかって左のハイサイドライトからの反射光を内部のうねる天井が光を内側へ反射させています。右は、縦スリットからの間接光（直射光）を祭壇方向に導く構成です。



今回初めて協会の県外研修に参加させて頂きましたが、とても充実した楽しい時間を過ごさせて頂きました。

建築物の木材利用促進に向け、「建築物における木材の利用促進に関する法律」が令和3年6月に改正され、木造建築が注目される中、今回の目的である、中大規模木造建築に対する取組として、「木を見せることへの配慮」「木の耐久性への配慮」「安全性への配慮」さらには、資材としての地元産材利用に伴う「森の健全な循環システムの再生へ向けた取組」など多くのことを学ぶことができました。また、日本を代表する建築家村野藤吾先生の作品も視察することができ、とても贅沢な研修でした。

今回の研修を機に、木造建築にも携わる機会を持てればと思います。関係者の皆様に大変感謝致します。ありがとうございました。

文/K建築総合研究所 坂口めぐみ